

<主要 Q&A>

全社:

Q. 2011 年 3 月期の概要は。

A. 2011 年 3 月期は、国内たばこ事業において増税、定価改定に伴う販売数量の減少があったものの、国内・海外たばこ事業における単価上昇効果が相殺し、調整後税売上高は微減、EBITDAは増益となりました。営業利益、経常利益はともに 2 桁増益となりましたが、固定資産売却益の減少およびカナダにおける行政法規違反に係る過料の支払に伴う損失計上に加え、東日本大震災に伴い製造工場等で発生した固定資産や棚卸資産の滅失・損失、修繕見積等の災害損失を計上したこと等による特別損失の悪化により、当期純利益は 4.7%増となりました。

Q. 2012 年 3 月期の見通しは。

A. 2012 年 3 月期の業績予想については、全社連結調整後売上高および EBITDA をレンジでお示ししています。これは、2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災により、国内たばこ事業において、製品等の製造、供給への影響が発生したことから、現在臨時的措置として銘柄数・数量を限定した状態での出荷を実施中であり、足元の販売数量減少と供給再開後の需要変化が現時点で合理的に見込めない状況にあるからです。全社連結売上高/営業利益/経常利益/当期純利益等を含む通常ベースの業績予想については、第 1 四半期決算発表時に公表する予定です。

国内たばこ事業:

Q. 2011 年 3 月期の販売数量実績は。

A. 販売数量は、2010 年 10 月の増税、定価改定に伴う大幅な数量減少により、11.3%減の 1,346 億本となりました。

Q. 2012 年 3 月期の販売数量見込みは。

A. 国内たばこ事業の販売数量については、上期の増税、定価改定影響および下期の趨勢減影響に加え、震災影響を受けることにより、大幅な減少を見込んでいます。

このような状況の中、出荷一時停止影響、出荷再開後のシェア影響、震災エリアにおける販売店様の被災による売上減等を現時点で合理的に見通すことは困難であることから、販売数量については一定の前提を置いて 1,000 億本～1,080 億本というレンジでお示ししています。

海外たばこ事業:

Q. 2011 年第 1 四半期の JTI の販売動向は。

A. GFB 販売数量および総販売数量は、2010 年下期からの回復トレンドを背景に堅調に推移し、それぞれ 2.1%、0.5%成長となりました。特に、GFB 販売数量は、ロシアでの Winston/LD (アップトレーディング再開)、台湾での Mild Seven (成長モメンタムおよび仮需要)、イタリアでの Winston (モメンタム)等の堅調なパフォーマンスにより、成長しました。

Q. 2011 年第 1 四半期の JTI の実績は。

A. 為替のマイナス影響があるものの、調整後売上高は 4.4%成長となりました。この成長は、数量効果に加え、単価/ミックス効果が主なドライバーです。また、為替中立ベースの調整後売上高は 6.5%成長となりました。